

拝啓 今年も早や年の暮となり、あと数日を残すばかりとなりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今年は特にきれいに感じた紅葉も終わり、葉も落ちてしまいました。近所の公園では、山茶花が咲いています。

今回は、前回から引き続き、同志会OBの村上劉治さん編纂の資料「小西芳之助先生金曜会語録」からの引用です。引用する文章の見出しは、私が引用する文章の中から見出しにふさわしいと思う言葉を探してつけています。今回の見出しに「信仰とは『まねび』」という文章があります。その最後に、「信仰とは自分で作り出すものではなく、『まねび』である」とあります。人間の理性では割り切れない信仰の世界を受けするためには、信頼する先生の「真似」をすることが大切なのだと思います。「修行」が必要なのだと思います。

12月16日に、三谷太一郎先生の講演「人は時代に行かに向き合うべきか—政治社会の変化と集団的自衛権の問題」を聴き、大変感銘を受けました。今回閣議決定された集団的自衛権と、日英同盟、日独伊軍事同盟とどこが違うのか、きちんと説明があるべきだ、と話され、結論として、核兵器のリアリズムと聖書のリアリズムのいずれを信じるか、と話されました。三谷先生も、人生最後のコーナーをまわり、これだけはきちんとおこうという決心の勇気ある講演でした。

12月26日には、石館基さんの告別式が霊南坂教会で行われ、私も石館基さんの思い出を話しました。その最後で、私は次のように述べました。

「小西先生が亡くなられたのが昭和55年、今から34年前、その時、私は高円寺東教会は、天にある霊の教会となったとある本に書いたことがあります。石館基さんも、今天にある霊の教会にもどり、イエス様、ポーロ先生、小西先生、守三先生、光子母上様、その他大勢の元高円寺東教会の信徒に「基君、よく頑張りましたね」と言って迎えられていることでしょう。

私達地上に残されたものは、召されるまで時間の長い短いはありまじょうが、それぞれの置かれた所で、全力を尽くして、目の前に置かれた義務を果たして参りたいと思います。基さんとの長い間のご指導、御親切を感謝し、又お会いする日まで、しばしのお別れの言葉と致します。」

高円寺東教会に行くようになって以来50年、ずいぶんお世話になりました。兄弟子と慕い、先生への信頼の仕方も学ばせて頂きました。

それでは皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、良いお年をお迎え下さい。

敬具

平成26年12月27日

山口周三

エンカウターの読者各位